

# センター通信

(第43号)

責任編集：清水展 吳咏梅

郵便番号：100081 Tel:8424893

1994, 12, 26

## ニュース

- ◇11月28日(月)～29日(火)：9期生の第2次中間発表が行われた。今度の発表は言語・文学と社会・文化という2組に分けて挙行了たもので、例年と比べて、学生に対する要求が厳しくなった一方、学生全体のレベルが高かったとの評判も聞こえている。
- ◇11月30日(水)：客員研究員・経済組の中間発表が行われ、発表者とテーマは以下のとおりである。陳虹：「日本の金融政策と銀行規則」；孫振波：「日本の経済政策」；李平：「日本産業組織政策」；高淑娟：「GATTと日本国内経済発展」。
- ◇12月5日(月)：日本社会・文化合同研究会が開かれ、対外経済貿易大学日本学科の黄栄光先生により「明治官僚の思想—井上毅の教育観を巡って—」と題する論文が発表された。
- ◇12月6日(火)：客員研究員の社会組と言語・文化組の中間発表がされた。社会組の発表者と発表題目はそれぞれ、宋金文：「中日農村経済組織の社会学的考察」；張秀敏：「主婦の就職と家族の在り方について」；馬紅娟：「現代日本女性」である。そして言語・文化組は、潘暢和、牛建科と劉振泉の3人の先生がそれぞれ「日本文化における儒教の地位」、「禅と日本哲学思想」、「現代社会における言語と文化」というテーマで発表をされた。
- ◇12月14日(水)午後：第5回目の文学・文化研究会が開催され、参加者は竹内実先生の著書『日本人にとっての中国像』のなかの一節「昭和文学における中国像」について、熱烈に討論をした。
- ◇12月15日(木)から始まった第8回北京日本学研究中心8期生修士論文答弁は17日(土)において順調に終了した。答弁の資格をもつ18名の院生は、1名を除いて、全部パスできた。本答弁に関する書類は、既に処理済みで、北外大に報告したり、保存したりしているところである。

今回の答弁は、例年と同じように、言語・文学・社会・文化と4つの組に分けて行われた。答弁委員は29名の中日学者という強大な教授陣から構成され、そのうち、源了園、十時巖周、平岡敏夫、輿水優を初めとする9名(今年が一番多い)の先生方は日本国際交流基金から特別派遣されたのである。

提出した論文と答弁の様子から見れば今回の学生は依然として高いレベルを見せた。とりわけ文化文学コースの学生は、一定の学術素養と見地を示し、答弁委員の好評を受けた。これらは、センター中日両方の先生方(とりわけ派遣教授並びに指導教授)の日頃の尽力した賜物とみていだろう。
- ◇12月21日(水)午後2：00：センターの客員教授孫平化先生(中日友協会長)が目下日本の政治情勢や対外政策について報告をされた。
- ◇12月24日(土)：クリスマス平安夜の午後、センターは北京のカトリック教会—西

什庫教会（北堂）の見学を組織し、専家の先生方が7名それに参加した。教会において、先生方は七十四歳の神父に北堂の歴史や北京のカトリック教会の活動状況を紹介してもらって、よく勉強になったという。

◇12月27日（火）午後：センターは派遣教授のマテオリッチのお墓参りの見学活動を組織した。

夜7：30、国家専門家局主催の新年文芸パーティが北京展覽館劇場にて開催され、センターの派遣教授の先生方及び家族が北京舞蹈学院の演出した大型民族舞踊劇「魚美人」（人形姫）を鑑賞した。

◇12月28日（水）午後：第6回目の文学・文化研究会が開催され、呉咏梅や北外大日本学部の熊文莉の両先生がそれぞれ論文発表をした。

夜6：00：北京外国語大学主催の元旦招待宴会が專家食堂二階で行われ、センターの派遣教授の先生方及び家族がそれに参加した。

◇12月29日（木）午後：第4回女性問題研究会が開催され、藤原暹先生が今学期の研究会の総括や日本兵庫県で挙行了した国際家族年総会の状況を報告した。

◇95年1月4日（水）夜：北外大專家食堂にて日本側主催の94年度秋学期派遣教授の先生方のための歓送会を行う予定である。

### < 自己紹介 >

平井和之：1958年東京都生まれ、神奈川県川崎市で育つ。現在東京外国語大学講師、専攻は現代中国語文法。今月6日にセンターに赴任致し、今まだ1ヶ月にもならないのに来月7日にはもう期間終了で帰国という慌ただしさで残念です。

今回は家族連れで参りました。家内はすることもなく一日中テレビで暇を潰しております。最近では『渴望』というドラマが気に入っていますが、一緒になって見ている娘二人もじきに主題歌を歌うようになり、怪しげな「中国語」で「悠悠歲月，欲説当年好困惑……」などとやっているのを聞くのはなかなか楽しいものです。

私は以前体重が70kg以上ありましたが医者に言われて夏から減量を始め、これ迄に15kg近く落とし、まああの成果であろうとひそかに自任しております。御参考までに幾つかコツを御紹介致しますと、1)減量とは食事制限であり、運動では減らない。2)空腹時に食べればよく、食事時間に拘らない。3)穀類・肉類を控え、野菜を多く摂る。蛋白質は少量の大豆製品や魚介類で補う。4)甘い物は不可。果物は可だが摂り過ぎないこと。

以上つまらぬことを書き連ねましたが御寛恕お願いして御挨拶に代えさせていただきます。

### 帰任にあたって

小野 正弘

私は、このセンターでは一応「教師」という肩書でしたけれども、「学生」に対してというよりも、実は、同じ研究をしている「後輩」というような気持ちで話をしていました。自分が、実際研究を組み立てていくときに、どのように工夫するかとか、そのときどんな困難があって、それをどのように克服しようとするのか、について話をしたつもりです。

もちろん、「身の上話」ではなく、もう少し客観的な目で捉えなおそうとしましたが。その過程で、今度は、自分がいままで無意識にやってきたことが客観化されもしてきました。これは、自分の側の成果であったと思っています。今度は「後輩」諸氏の方から、工夫と困難の克服について、話を聴きたいと願っています。大成を祈っています。

## 等身大の北京

市瀬 智紀

私は92年から長く北京に滞在していたおかげで、人よりも多く「不思議な体験」をすることになった。

一、2000年オリンピックの北京招致運動と、建国45周年の国慶節を経験した。この時期中国は経済の好況に沸き返ってまぶしく光り、反対に日本は不況と政変で暗くくすんでいた。首相が4人も替わった。「どうして細川さんはやめたのかね？よさそうな人じゃないか。」といった友人の声が耳に残った。

一、私は中国の辺境を旅するのが好きで、学期が終わると、貴陽・安順・凱里、麗江・大理・楚雄・昆明、成都・巴東・万県・岳陽・長沙など、およそ人の行きそうにないところを選んで一人で旅した。冬に攀枝花から麗江に向かった時は、ありがちなパターンでバスが故障し、一日中山の中に投げ出された。飯屋もないので仕方なく付近の農家でバナナをもらって来て食べた。やっと麗江についたのは夜中の2時で、泊まる宿など当然なく、高地の夜明けをうずくまって迎えた。こういう体験は数知れないが、まるで自慢にならないので話さないことにしている。

一、私の手もとに、春節に子供たちと爆竹をして遊んだ写真がある。これが北京で爆竹をして遊んだ最後だった。胡同の四合院に住んでいる友人の家に、私はよくお邪魔し、臘八粥、元宵、涮百葉、窩頭、打鹵面、包餅などあらゆる家庭料理を食べさせてもらった。

一、私はその四合院に住む一家と深く関わっていたので、どうしたのか、ある時結婚の相談を受けたことがあった。M氏は日本でベンツに乗っている会社社長で、50になるがまだ独身だった。この人が不幸な境遇にあった北京の女性と知り合い、国際結婚することになった。お互いに言葉が不自由なので、誤解のないように二人の間に立つようにと頼まれた。M社長夫妻は今日本で平和に暮らしている。

一、私の住んでいる友誼賓館4号楼は、実は人の住むところではなく、オフィスビルであった。その私の4号楼の部屋に「日本語を教える」という無謀な電話がかかってくるがあった。電話をしてきたのは、4号楼の外資系企業に勤めている、年若い彼ら彼女たちだった。みな北京の有名な大学を卒業していて、日本や外国に興味をもっていた。知りあってから1年ほどたつと、やがて彼らはその外資系企業をやめて、自分の志を遂げるためにアメリカやイギリスに留学に行ってしまった。その向上心とバイタリティに、私は真に敬服している。

こんなふうには私は予期していた通りの北京生活を送ることができた。双手抱拳、鞠躬。